



2016年度スローガン

篝火 ～青年らしく、
情熱的に燃える～

稲城青年会議所
第41代理事長 鈴木 誠

本気で、人を、街を、世の中を動かすならば、先ず自分自身が中心で熱く燃え滾っていなければならない。冷たいままでは何も成すことは出来ない。

過去から学び、未来を常に真剣に考え続けることは現在を生きる者の使命。先人の志を受け継ぎ、子孫に誇りを持って世の中を引き継ぐ「経世の立志」を持たねばならない。

その実現のために、我々青年は燃え上がる情熱で行動することが求められている。

はじめに

我々、青年会議所は明るい豊かな社会の実現を理想とし、20歳～40歳の仲間が共に向上し合い、世の中に貢献しようという理念と情熱をもった青年同志が集った運動体である。

稲城青年会議所は1975年創立以来、40年の長きに亘り、志を同じくし、共に活動する仲間達は勿論、多くの市内各種団体や先輩方、そして各地青年会議所のご支援を得て、次代の先駆者たらんとする氣一本に、全身全霊を懸けて行動し、結果を出してきた団体だ。

我が国の現状を見れば、高齢化社会から人口減少社会へと転じ、震災復興を含め課題が山積している苦境だが、2020年には東京オリンピック・パラリンピック、リニアモーターカー開通など多くの希望がいくつも輝く、正に暗い夜空に星々が点々と輝いているような状況だと感じる。

さらに我が街・稲城でいえば平均年齢は東京都内、陸部において最も若く、人口も10万人都市へ向け増加の一途を辿り、将来に対する希望がより感じられる大変恵まれた環境にある。この状態に満足せず、さらに発展させ、より良く持続発展する稲城の構築が今この街に関わる青年全てに課せられた使命であると確信する。現状維持は衰退に他ならない、持続は勿論、発展進化を遂げていくことが絶対に必要である。

我々は運動体である。この運動の究極の到達点は「ありとあらゆる人間が、明るい豊かな社会の実現に取り組む主体的意識を持ち、行動するようになること」であると、私は信じている。

人々の心には各々の火種があるはず。その火種が、この国に、この街に、「自分がやらねば誰がやる」という熱い主体者意識の炎へと大きく変わり、明るく暖かい篝火となり、そしてそれがたくさん立ち並ぶような世の中にしていきたい。

本年、第41代理事長という伝統ある重大な立場をいただいたことへの感謝、そして、幼少期より優しく育んでくれた稲城と皆様への感謝が私自身の火種である。先輩から受け継いだ火種と、今を共に活動する仲間たちの火種を合わせ、稲城青年会議所の若き情熱の炎を大きくすることは私の責務である。

情熱が燃える場所は

主体者とは自覚や意志をもち、他に作用を及ぼす人。あるいは組織や集団における中心に立つ、まさに情熱的に行動する者である。

我々がそう在り続けるためには、まず、今を生きる者として、過去から未来への「時間」という縦軸と、同時代を生きる「つながり」という横軸の交差点に、今自分が立っていることを意識すべきではないだろうか。自分が何処で何をやる者であるのか、それが解らなければ活動自体も根の無い事に成り兼ねない。そして、その立つべき場所は強固な場所ではなくてはならない。

縦軸とは自らの足元を掘り、歴史や伝統文化を感じ、祖先から今に受け継がれてきたもの、自分が何処から来て何処へ向かおうとしているのかを認識すること、そして、それらをより良い状態に仕上げ、未来へと譲り渡していくことを指す。

横軸とはいま同時代を共に生きる仲間たち、あるいは社会の向上を目指して様々な角度からアプローチをする各団体とつながり、協力して相乗効果を生むことを指す。

この縦軸と横軸が交差する、真ん中に、まず自分達の立ち位置を見出すことが必要だ。そして、その立つべき交差点が強固な地盤であれば、その役割を十二分に担うことが出来るはずだ。緩んだぬかるみであっては行動もままならない、併せて足元を強靱にする底力が求められる。

縦軸を辿り紡ぐ、次の未来へ

縦軸は過去から現在、そして未来への方向性を指し示すものであると考える。

稲城の街は、何百年と続く農家旧家もあれば、ニュータウン住民として新たに引っ越されてきた方などが混在し「稲城とは何か」を問われることも多い。地域の伝統文化を再発見し、自分たちは何故今ここに居るか、先人たちは自分たちへ何を引き継いでくれたのかを確認し、住まう郷土を愛する稲城人としてのアイデンティティをより強く持つべきと考える。これまでを知らずして、これからを創る事は出来ないからだ。

過去を踏まえた上で我々が未来へと何を残せるのか、自分に出来ることは何なのかを見つけ、実践することが縦を紡ぐことになる。その際には当然に次代を担う子供達に明るい豊かな未来に向けた指針を示し、立派な成長を遂げてもらえる「縦軸」の事業を展開していく。

伝統文化を尊び、これまでを作り上げてきた先人達へ感謝の念を持ち、子供たちが力強い意思を身につけ、さらに先の未来を紡ぐ志を醸成することを目標とする。

横軸を伸ばし、新たな力に

横軸は同じ時代を生きる人間達の繋がりとその協働、正に事を動かす力であると考え。

いくら縦軸が上へ下へと伸びていても、その横の伸張が無ければ小さな事で終わってしまう。稲城青年会議所自体の会員拡大は急務である。これまで以上に、拡大をより現実的なものにするべく数字目標を持ち、本気で拡大を達成していく。また、市内外を問わぬ社会貢献への志を共にする団体相互間の理解を深めることで連携を強化し、新たな繋がりを求める。

個々の力は弱くとも、束になれば強靱なものになる。街の中、東京全体、或いは日本、世界へと横軸を伸ばし、新たな力を生み出すような「横軸」の事業を展開していく。

JCの礎たる会員の拡大を中心に据えて、各団体との協力体制の構築、世間に稲城の街をより広く認識してもらうこと、そして地域から国家、世界までを視野に入れた活動を目標とする。

底力を引き出す、強靱な組織を

縦軸と横軸の交差点に立つ時、当然にその地盤は強固でなくてはならないと考える。

縦軸にて歴史を辿り、未来を紡ぐにも、横軸にて新たな広がりを求めるにも、我々自身が後顧の憂い無く全力で活動できることが前提となる。

稲城青年会議所が、強靱で在り続けるためには、会員の意志確立、能力の向上、実のある意見交換等、円滑で関連な組織体となることが不可欠である。

会員の、組織の力が十二分に発揮できるよう、稲城青年会議所という組織体を持つ「底力」を最大限に引き出せる運営体制再構築を目標とする。

人々が求める篝火たれ

40年前、稲城青年会議所はその創立にあたり「新しい世代のための推進力となり、強い連帯感のもとに郷土発展と理想社会実現に向う」と皆様に約束した。

人々の心に情熱的な火を分け灯し、時には方向を照らし示し、またある時には人々が暖を取りに集う希望の篝火となり、青年らしく煌々と燃え盛る、それがJAYCEEには求められている。

縦軸と横軸の交差点に雄々しく立ち、青年らしく情熱的に燃える。稲城の篝火たれ。